



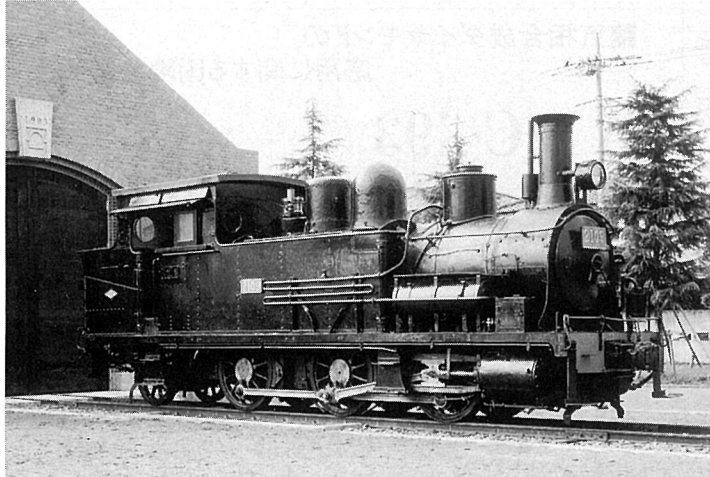
発行所
日本工業大学
広報課
〒345 埼玉県南埼玉郡
宮代町学園台4-1
☎ 0480(34) 4111

百二年前の蒸気機関車

工業技術博物館に動態保存

学術・文化的に貴重だとして、産業考古学会から昨年五月に「産業遺産」として認定された蒸気機関車が、大井川鉄道から本学に寄贈され、工業技術博物館に動態保存されることとなりました。この機関車は、百二年前にイギリスのグラスゴーで製造されたものにもかかわらず、ブレーキを除きほぼ原型をとどめています。このたび記念式が行われましたので、工業技術博物館の丹治先生に解説していただきました。

大井川鉄道株式会社にて保存されていた二〇〇形一、二一〇九号蒸気機関車が本学に寄贈され、平成五年九月十日に同機関車の永久動態保存記念式典が挙行了されました。明治二十四年（一八九一）にイギリス・ダブス社で製造



2100型—2109号蒸気機関車と機関車庫

され、日本に輸入されたこの蒸気機関車は、同一設計の二一〇〇形と共に、ドイツ製二四〇〇形・アメリカ製の二五〇〇形が存在し、これらは「B六」と総称され、総数五百両以上が輸入されました。そして、二〇〇形の十号機であった

たため「二〇〇形—二〇九号」と呼ばれ（機関車の番号は〇〇号が一号機となります）、最初期のものであります。当時としては、大馬力であり、設計・性能共に優れていたため、急勾配用・貨物用や山岳線の客貨物両用に使用されました。その後は、各地の幹線や駅構内での入換用に重用され、昭和三十年代まで活躍するという長寿ぶりを示しました。昭和四十五年（一九七〇）に廃車となるものの、その歴史的価値から鉄道友の会による保存要望がおり、大井川鉄道株式会社がこれに応じ、日本の蒸気機関車の動態保存の先駆けとなりました。昭和五十一年（一九七六）以降は静態保存となり、千頭駅や金谷駅で保存・展示されてい

ました。平成四年（一九九二）には、産業考古学会より産業遺産として認定され、後に本学への寄贈が決定されました。多少の改造が加えられているものの、製造時のメーカーズプレートは今も残り、機関車全体としては比較的オリジナルな姿を保ち、スチブソン式弁装置等を採用した貴重な蒸気機関車の中の一つです。

また、このような歴史的な遺産を、本学工業技術博物館において永く保存することは技術史的観点から重要であり、

（工業技術博物館 丹治 明）



テープカット（左から鈴木館長、神野会長、大川理事長、白井副社長）

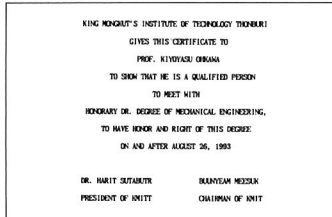
人物往来

□丹羽次郎・情報技術センター講師
九月一日から二十日まで、サウジアラビア・リヤド電子技術学院にて、学院ならびに学科運営に関してアドバイスおよび技術指導。
□梅崎栄作・機械工学科助教
八月十一日〜十五日の間、タイ・キングモンクット大学トンプリ校でCADに関する特別講義。
□鈴木 清・システム工学科教授
九月十九日〜二十五日の間、タイ・キングモンクット大学トンプリ校で新加工技術の開発手法に関する特別講義。
□セーニー・シラチャイ（タイ・キングモンクット大学トンプリ校機械工学科助教）
日本学術振興会の招きで、画像処理による光弾性応力解析の研究のため、九月二十七日から十一月一日までの三十二日間、機械工学科梅崎栄作研究室に滞在。
□蔡 忠灼・台湾国立交通大学機械工学科教授
大川学長は、今回の名誉博士の学位は「ひとり自分がいたのだいたものではなく、日本工業大学全体の功績にたいして授与されたものと考えており、この意味で日本工業大学の歴史に残るものと考えている」と述べ、これを機にさらに両大学並びにタイ王国と日本の友好が深まることを希望します。と締めくくりに、御礼の言葉とした。

大川学長に タイ・キングモンクット大学 トンプリ校から 名誉博士授与

本学と学術交流協定を結んでいるタイ王国キングモンクット大学トンプリ校から、大川陽康学長に、十月十八日、国際交流に対する貢献と機械工学の分野における教育研究業績に対して名誉博士の学位が贈られた。

学位記授与式はバンコックの中心である議事堂からほど近いアーカンマイ・スワナポンで行われ、初めに、大川学長ほかアナン元総理大臣等四名に、国王代理で国民的望望



名誉学位授与式での学長



学位記

（英語訳）



調印式



NC研究所・玄関

華中理工大学と 再調印

学術交流についての取り決め

華中理工大学と本学との間で昭和五十八年十月に締結された「学術交流についての取り決め」が、十月十四日、黄樹槐前校長からその職を引き継いだ楊叔子新校長と、華中理工大学創立四十周年記念式典出席のため同大学を訪問中の大川学長との間で再調印された。

「取り決め」は、その有効期限を五年と定められており、今回の再調印によって両大学の交流は十一年目に入ることとなる。この間、研究員の相互派遣が活発に行われたが、特に、呂言客員研究員の本学第二号課程博士授与や廣瀬治男教授と華中理工大黄一夫教授とが中心となって設立の合

客員研究員

華中理工大より

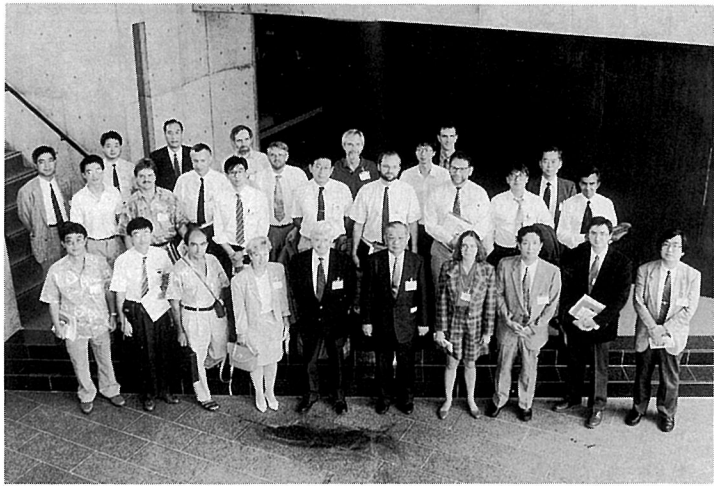


ける筆記疲労低減について」（十月三十日）講師・友和クリニク院長宇土博博士。

づき客員研究員として、劉艶明氏が十一月八日来学した。

劉艶明氏は一九六四年生まれの二十八歳、華中理工大学自動制御工学部卒業後、大学院に進学、修士の学位を一九八九年に取得、また一九九二年には博士の学位を取得している。

今後は、情報技術センター助教山田滋友研究室で「NC関連の新技術」並びに「ファジー制御理論及び応用」の研究課題の元に、一年間研修の予定である。



本学見学会 (学長の左側がAngus教授)

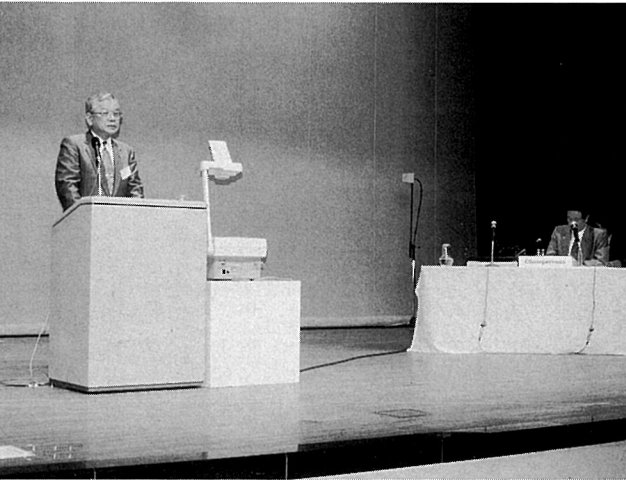
ADC '93が、八月二十五日から三日間にわたって大宮ソニックシティで開催され、本学からは大川学長・村川機械工学科教授・三宅システム工学科教授を初め、多くの先生方が組織委員会やプログラム委員会の中心メンバーとして参加されました。そこで、村川機械工学科教授にADC '93について解説していただきました。

ADC '93が、八月二十五日から三日間にわたって大宮ソニックシティで開催され、本学からは大川学長・村川機械工学科教授・三宅システム工学科教授を初め、多くの先生方が組織委員会やプログラム委員会の中心メンバーとして参加されました。そこで、村川機械工学科教授にADC '93について解説していただきました。

■気相合成ダイヤモンドの
応用に関する国際会議■

ADC '93
開催される

標記国際会議はニューダイヤモンドフォーラムと日本工業大学が共催して、八月二十五・二十六日の三日間大宮ソニックシティ国際会議場で開催された。はかばかしくない経済状況にもかかわらず、海外十七カ国から八十名、国内からは百六十二名の計二百四十二名という多数の参加者を得て盛況裡に終えることができた。



オープニングで挨拶する大川学長

が中心となつて一九九一年の第一回の会議 (1st Applied Diamond Conference (ADC '91)) 開催に至つたのである。これはダイヤモンドの応用にかかわる研究者がいわば手作りで開催した会議であつた。この会議はダイヤモンドに関する幅広い研究分野から三百余名もの参加者を得て、予想以上の成功をおさめた。そして、次回は日本で開催して欲しいとの強い希望が出された。かくして、ダイヤモンド膜の応用の研究の国内の草分けの一人である東京工業大学の吉川教授 (今回の組織委員長) に協力をいたしたAngus ADC (ADC '93) が組織された。

二十五日からの本会議は、オープニングとして筆者の司会による吉川組織委員長、大川学長 (会議の実行委員長) の挨拶より始まり、三日間にわたつて百五十一件もの発表が行われた。気相合成ダイヤモンドの応用で現在最も注目されているテーマは、半導体への応用であるが、この分野だけで四十件もの発表があり、世界の最先端の研究成果が発表され活発な討論が行われた。二日目の夜には隣接するパレスホテルで、バンケットが盛大に行われた。参加者は約百名にものぼり各国の研究者が親交を深めることができた。最終日は台風の直撃により、一時は電車がすべてストップするというハプニングもあつた。しかし事務方の努力によりたいした混乱も生ぜず、多くの参加者は最後まで活発な討論を続け、一九九五年の再会を約束した。

最後にになりましたが、今回の会議の開催にあたり、大変なお力添えをいただいた大川学長をはじめ、ご協力いただいた関係各位の皆様に深く感謝いたします。
(文責: 機械工学科教授 村川正夫)

昭和四十二年の開学以来、本館 (一・二・三号館) は必要に応じ、室内の改装・外壁の補修等の改善を行ってきた。大学として、教育研究装置・設備を最優先に充実すべく努めてきた経緯もあり、残念ながら、空調、特に夏の冷房の設置については、実現せず、現在に至りました。そこで、工事を平成五年度・六

二十五日からの本会議は、オープニングとして筆者の司会による吉川組織委員長、大川学長 (会議の実行委員長) の挨拶より始まり、三日間にわたつて百五十一件もの発表が行われた。気相合成ダイヤモンドの応用で現在最も注目されているテーマは、半導体への応用であるが、この分野だけで四十件もの発表があり、世界の最先端の研究成果が発表され活発な討論が行われた。二日目の夜には隣接するパレスホテルで、バンケットが盛大に行われた。参加者は約百名にものぼり各国の研究者が親交を深めることができた。最終日は台風の直撃により、一時は電車がすべてストップするというハプニングもあつた。しかし事務方の努力によりたいした混乱も生ぜず、多くの参加者は最後まで活発な討論を続け、一九九五年の再会を約束した。

最後にになりましたが、今回の会議の開催にあたり、大変なお力添えをいただいた大川学長をはじめ、ご協力いただいた関係各位の皆様に深く感謝いたします。
(文責: 機械工学科教授 村川正夫)

今回の空調工事に合せて次のような教室その他の改修を、将来各設備について中央監視が可能のように配慮しました。天井張り、照明の改修、火災報知設備の改修、非常放送設備の設置、大学祭用電源の設置、将来を見通したコンピュータ専用電源の設置、LAN (ローカルエリアネットワーク) 用の配管設置、スピーカー用配管の設置。

空調のための機械棟を、一号館両脇に建設 (約三〇〇m² します。一階は冷水発生機、二階は (東側の機械棟のみ) 変電所。現在の変電設備 (一

号館両脇に建設 (約三〇〇m² します。一階は冷水発生機、二階は (東側の機械棟のみ) 変電所。現在の変電設備 (一

今夏新設され、後期から営業を始めた寿司コーナーについて紹介します。この寿司コーナーは、日本工業大学後援会が大学に全面的に協力し、学生のキャンパスライフを豊かにするために、(株)日本工業大学サービスセンターの充実を求めてきた種々の特別事業 (昭和六十三年度談話室改修、平成元年度食堂の全面改修、平成二年度購買部・書籍部の改修、平成三年度食堂内の空調、平成四年度テラス部分の改修) の平成五年度分として、学生の希望メニューの多様化に因るため新設されたものです。

今夏新設され、後期から営業を始めた寿司コーナーについて紹介します。この寿司コーナーは、日本工業大学後援会が大学に全面的に協力し、学生のキャンパスライフを豊かにするために、(株)日本工業大学サービスセンターの充実を求めてきた種々の特別事業 (昭和六十三年度談話室改修、平成元年度食堂の全面改修、平成二年度購買部・書籍部の改修、平成三年度食堂内の空調、平成四年度テラス部分の改修) の平成五年度分として、学生の希望メニューの多様化に因るため新設されたものです。



寿司コーナーのスタッフのみなさん

今後は是非、積極的に利用していただくことを期待します。

今後は是非、積極的に利用していただくことを期待します。

今後は是非、積極的に利用していただくことを期待します。

今後は是非、積極的に利用していただくことを期待します。



寿司コーナーのスタッフのみなさん

今後は是非、積極的に利用していただくことを期待します。

今後は是非、積極的に利用していただくことを期待します。

今後は是非、積極的に利用していただくことを期待します。

今後は是非、積極的に利用していただくことを期待します。

第十回英会話カナダ

特別セミナーを引率して

森山 幹郎

さる八月十四日より九月七日にかけて第十回英会話カナダ特別セミナーを実施しましたので、報告いたします。参加者は学生諸君が二十五名内女子四名に筆者と学生課より杉村京子さんが同行しました。以下に、かいつまんで説明してみよう。

まず、研修先ですが、例年通りカナダ太平洋岸のバンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビア大学で行われました。バンクーバーは人口約五十万の大都市で、大学自体はダウンタウンからトロリーバスで三十分程の所にあります。大学は三万七千人の学生がおり、これに教職員を加えるとざつと五万人の人口です。当然、極めて広大なキャンパスを有します。とにかく、毎日てくてくとよく歩いたものでした。

我々の直接の受け入れ先は生涯教育センター傘下の言語研究所でした。能力別に二クラスに分け、ベテランのポール先生と二十代半ばを過ぎたカレン先生が担当でしたが、お二人とも日本工大の学生諸君にはピッタリの先生で、実に忍耐強く教えていただきました。日本工大生はどうですかと伺ったところ、とても個性的だということでした。四週間のプログラムも歌やゲームをしたりと楽しくこなしていただきました。

午前中の授業の後は、カルチュラル・アシスタントと共にダウンタウンに出ます。クラスで習った表現を午後に応用しようというわけですが、彼らの民族的背景はさまざまです。アングロ・サクソンのみならず日系、中国系、アフリカ系とバラエティーに富んでいました。入れ代わりが結構あったのですが中国系のレスリー・チャンという女性が最後までずっとつきあってくれました。彼女の英語はやや中国なまりがあり、かなりの早口なので学生諸君は当初は面食らっていました。そのうちに馴れて



UBCのスタッフと記念撮影

てなんとか通じていました。それから是非ともオプショナル・ツアーのことをお話ししなければなりません。行く先はカナディアン・ロッキー山中のバンフでしたが、実に雄大な所でした。従来は一泊二日だったのですが、今回は費用は同額で二泊三日になりました。まず、バンクーバーから飛行機で一時間のカルガリーに行き、さらにそこからバスで一時間四十五分かけてバンフへ行きました。

バンフは山間の綺麗な町で、どこか静けさを感じさせます。翌日からバスであちこち見学するわけですが、ロッキーマウンテンは名付けたもので山頂はまるで岩だらけなので

ヨーロッパ研修旅行を終えて

有賀 幸則

八月二十四日朝七時前、東京シティーエアターミナルにやや緊張した面持ちで重そうなスーツケースを持った若者が三々五々集まりだした。第二十一回になるヨーロッパ研修の出発の日が光景である。今回の旅行の団長役を仰せつ

す。その山間をぬって長々と続くハイウェイを大型バスで走る訳です。時々、湖の側で休憩したりお昼を取ったりしました。この湖が遠くから見ると実に鮮やかな水色なので、説明は受けたものの何とも不思議な感じがしました。それから、ホームステイの方ですが、こちらの方も皆楽しくすごしていたようで、なによりでした。初日のオリエンテーションのみならず、ホームステイのファミリーにもオリエンテーションを実施して

いたが、それほど苦もなく出発時間になった。その後離陸したのが十四時四十分頃である。朝集合してから既に八時間近く経っている。そのうえ、これから時差六時間のロンドンに行くわけであるから、なんと長い一日を過ごすことになるのかと溜息がでた。



ヴェネツィアにて

しかし、離陸後のドリンクサービスが始まればすべてを忘れ、これから先の二日間間の旅を想像し夢心地の時間を過ごすことができた。とは言っても約十二時間エコノミークラスの狭い椅子に座っているのは疲れるものである。今回の旅程はロンドンで三泊、バルセロナで二泊、パリで三泊、チューリッヒで二泊、ミュンヘンで二泊とここまで

ヨーロッパ研修に参加して

機械工学科四年 小山 靖

皆さん、今日は。この度、この場をお借りして、ヨーロッパ研修についてお話しをしたいと思います。

私は、現在二十二歳ですが、今までに飛行機に乗ったことがありませんでした。そんな私が二十日間もの研修に参加するにあたって、それなりの目的がありました。それにしても、イギリス・スペイン・フランス・スイス・ドイツ・オーストリア・イタリアの計七カ国十都市を巡るあの二十日間は、

英会話カナダ

特別セミナーに参加して

電気電子工学科三年 大塚 将史

今回、英会話カナダ特別セミナーに参加したのは、卒業前に一度は海外で、生の英語に触れておきたいと考えたからだ。サンノゼまでは約九時間、さらに飛行機を乗り換えUBCに到着すると今後の説明があった。丁寧に話しているのだが、意味が全く分らない。この先が思いやられる。

ホームステイは、出発前にリストが送られてきたが住所しか分からず、ある程度の情報をもらったのは、カナダに着いてからだった。僕の行ったホストファミリーは、退職した二人暮らしの老夫婦ということだった。ホストファミリーの情報はできれば日本ではなかった。僕らは六、八畳程の部屋をもらって、家は外から見ると二階建てだが、坂に建っているため三階建てといえる。そのあたりの住宅と比べても一般的な大きさだが、



ホストファミリーと (右・大塚君)



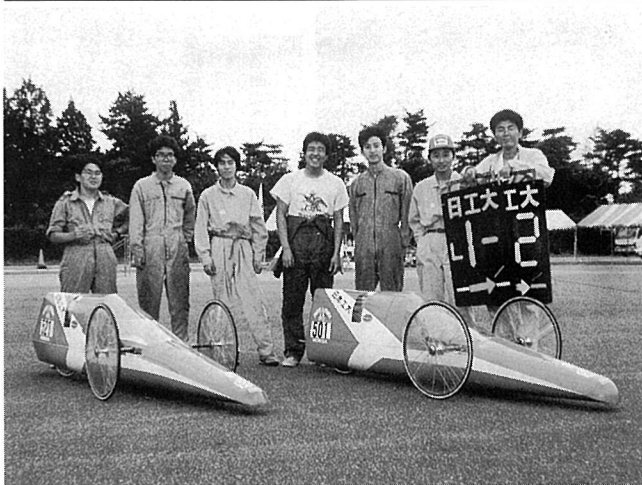
凱旋門にて (左・小山君)

ホームステイで印象に残っていることがある。日本人は挨拶をするときお辞儀をし、嬉しい時にもリアクションが小さい。カナダ人はこんな時お互いに抱き合う。これが向こうの人には今一つ距離があるようで、理解しにくい日本文化の一つらしい。ホームステイ先に犬がいたが、僕らが

その犬を撫でられているのを見て、なぜ同様に人ともスキンシップをしないのか不思議がっていた。帰る頃には慣れてきて、別れる時には自然な気持ちでホストファミリーと抱き合うようにして挨拶をしてきた。郷に入れば郷に従え。外国人と付き合い、文化を理解していくには、こういったところから始めていかなければならない。知っていると云うだけではいけないので、理解しにくい日本文化の一つらしい。ホームステイ先に犬がいたが、僕らが

エコノパワー燃費競技全国大会 自動車部 3連勝

自動車部が、第十三回ホンダエコノパワー燃費競技全国大会カレッジクラス（大学・短大の部）で、三年連続優勝した。



行われる。本年度は九月十八日・十九日の二日間に行われ、開催され、カレッジクラスには六十三台が出場した。本学自動車部からは「N I C M O 八四六」と「N I C M O 九三E」の二台が参加、「N I C M O 八四六」が千四百四十五・九七キロを走り、昨年の優勝記録を四十三キロ余り更新して優勝した。また、「N I C M O 九三E」も千百十三・一七四キロをマーク、二位に入賞し、一・二位を独占した形となった。

優勝車両は、若杉祭期間中（十月二十九日～三十一日）、優勝楯と共に、号館二階ロビーと二九教室で展示され、多くの人々の関心を集めた。

優勝した自動車部

平成四年度決算 平成五年度予算

報告

第二十六期決算・第二十七期予算が公認会計士及び法人監事の監査を受け、法人理事・評議員会で承認・決定されましたので、ここに財務諸表を公表し、関係各位のご理解とご協力をお願いする次第です。

平成四年度決算は、八歳人口は平成五年度より減少の途を辿り始めました。五年後の平成十年度には平成四年度より約二十パーセント、十年後の平成十五年度には約三十パーセント減少するであろうとの試算も出されており、この試算も出されておられます。ところで、私共私学における主たる財源は、入学検定料収入・学生生徒納付金収入・国庫よりの補助・寄付金収入等であり、この内、私学の大きな支えとなっている国庫補助は、経常経費補助金

は年々減額されてきており、私学経営危機が叫ばれている一因となっております。この様な状況下、平成四年度、本学においては、故田田宗英前理事長の功績を記念し、工業教育の振興に寄与すべく「窪田宗英記念学術振興基金」が設けられ、当基金の一部がより充実した学生生活が送れるよう、本学に在籍する大学院生・学部生の育英・奨学事業に平成五年度より充てられることとなりました。また、キャンパスの総合計画及び総合設備計画を柱とした学園将来計画「N I T 21」が動き始め、平成五年度には建築学科棟新築工事が着手されます。今後の厳しい経営環境を迎えるに際し、徐々にではありますが、環境の整備改善に努め、魅力

平成四年度 決算について

年度内の、全ての収支を表す資金収支計算書と、期末における全ての資産と負債の状況を示す貸借対照表は別表のとおりです。

□教育研究経費
教育研究活動の充実と活発化をめざし教育研究経費の確保がなされ、円滑なる教育研究活動を支えました。

□第三号基本金の組入れ
本法人の教育研究の振興に

平成五年度 予算について

画像情報システム教育装置、多目的複合超音波研削システム、CNC歯車研削盤、被覆コイル材切削法金属繊維製造装置、CNC旋盤、T A C T Xライナービームマックスシステム、高速精密旋盤、全自動強力高速鋸盤

本年度の主たる施設計画は、建築学科棟新築工事、本館二・三階の空調工事であり、その他、教室・実験棟の改善工事も行なわれる予定です。

「新築工事」

教育研究経費

建築学科棟新築工事

伊原研究室 （システム理論）

研究室では



わけです。

研究室のイメージを伝える写真が図面を添えて入った、と思いましたが、右の次第でまだ安心して掲示できる材料が見当たらない。文章だけの紹介になることを、ご容赦願います。

実験室は、パソコン教台と腕口ロボット実験装置などが置かれた、やや古目の、天井が高い小部屋を想像ください。これは、四月に定年退職された長谷川先生から引き継いで預かっているものです。

今年四月から、大学院にシステム工学専攻が開設され五名の入学を迎えました。そのうちの一名と、学部四年生の卒業研究生十

二名の研究室のメンバーです。本学に私が着任したの

は昨年十月ですから、私も入れて全員が一学期と言う

この実験室で次のような情景が日常化したのは、学生達が今年度の厳しい就職活動をややく乗り越えた、夏休みの終り頃からでした。

うつむいてコンピュータのキーボードを操作する者、瞑想と居眠りの狭間に漂う者、頭髪をむしりながら紙に何か書きつけている者、小形の奇妙な装置（歩行学習ロボットと称する物体）を製作中の者、ゆつくり動くロボットアームを立ったりがんだりして観察する者、討論とおしゃべりともつかない会話を交わす者、さまざまです。

時折グループが違うのに、パソコンの前に集まって、い集中力で共同作業をしている者達がい、そんなときのコンピュータは、せわしない音をたて画面に奇怪なロゴマー

クが飛び交っています。私が実験室に入っていくと、なぜかロゴマークも集中力も消え失せてしまします。

今年度の学生たちは五つのグループに分かれて、それぞれ次のようなテーマに取り組みんでいます。

1・現象のシステム論（自動車関連技術の変遷）

2・システム解析エネルギー・環境問題のシステムシミュレーション

3・システムシンセシス（太陽/水素エネルギー利用システムの構成）

4・人口知能的制御（ニューラルネットワークによる学習歩行ロボット）

5・最適化と重なり作業による最適化（最適化と重なり作業による最適化）

括弧の上の記載は、システム工学的な研究領域を示す意図で、とりあえず提示した課題です。これらの研究の枠組が与え、具体的なテーマはできるだけ学生自身に考えさせました。括弧内は、このようにして今年度の学生が自分で選んだテーマです。

研究目標とスケジュールも学生自身で決めていきます。おそれる提出して来た計画に、卒業論文のまとめが、環境問題のシステムシミュレーション

研究計画でも、一所懸命実行しているうちに自分の志と同化するのを期待しています。昨年十月までの三十年近く、国立研究所で研究を続けてきた私には、意外であり大いに意を強くしたこともあり、学部四年生になると現

在の科学技術の潮流をよく感じとっている者が多く、かなり高いレベルの研究テーマを真剣に志向する者が沢山現れています。彼らの意欲に応え得る研究環境を創るために、研究室のスペースと資材を充実させたいと、非才を省みず工夫しているところ、なにとぞ指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

（註）

ニューラルネットワーク動物の神経細胞の動きの一部を模倣するように、電子機器などで構成した回路網。人間の学習機能を代行させる方法として、図形認識の技術分野では実用が始まっている。

（システム工学科教授 伊原征治郎）

平成4年度資金収支計算書

収入の部		金額	支出の部		金額
学生納付金収入		4,491,599,500	人件費支出		2,384,503,100
授業料	2,959,357,000		教育研究費支出		1,007,979,229
入学料	235,504,000		施設関係支出		1,101,419,676
実験研究費	395,230,500		設備関係支出		564,323,636
施設設備拡充費	901,508,000		管理経費支出		192,644,332
手数料収入		110,686,600	借入金等利息支出		73,586,980
寄付金収入		256,743,880	借入金等返済支出		101,350,000
国庫補助金収入		583,849,000	その他の支出		1,404,785,853
資産運用収入		370,950,248	未払金	60,176,537	
事業収入		11,241,350	退職給付引当特定資産繰入	31,174,945	
雑収入		82,451,522	施設引当特定資産繰入	720,608,468	
借入金等収入		950,000,000	育英基金特定資産繰入	12,829,700	
学費前受金収入		1,871,116,900	設備引当特定資産繰入	39,589,399	
未収金収入		112,124,000	第3号基本金引当資産繰入	275,000,000	
育英基金特定資産取崩収入		275,000,000	その他	265,406,804	
その他の収入		35,074,430			
資金収入調整勘定		Δ1,840,991,756	資金支出調整勘定		Δ41,310,425
学費前受金控除	Δ1,708,177,250		次期繰越資金		3,408,616,423
未収金控除	Δ132,814,506				
前期繰越資金		2,888,053,130			
収入の部合計		10,197,898,804	支出の部合計		10,197,898,804

貸借対照表

収入の部		金額	支出の部		金額
資産の部		11,121,813,806	負債の部		2,879,743,786
固定資産			固定負債		
土地	1,796,554,545		長期借入金	1,742,310,000	
建物	4,960,981,218		退職給付引当金	1,137,433,786	
構築物	275,181,301		流動負債		
教育用機器備品	3,132,499,966		短期借入金	94,620,000	
その他機器備品	85,846,758		未払金	41,310,425	
図書	816,401,624		前受金	1,871,116,900	
車輦	4,709,494		預り金	89,730,873	
建設仮勘定	49,638,900		基本金の部		
その他の固定資産		5,650,999,357	基本金	15,792,201,339	
電話加入権	1,948,514		第3号基本金	275,000,000	
有価証券	500,000				
第3号基本金引当資産	275,000,000				
退職給付引当特定資産	587,549,563				
育英基金引当特定資産	12,732,308				
施設引当特定資産	4,532,840,074				
設備引当特定資産	239,781,198				
差入保証金	647,700				
流動資産		3,564,810,230	消費収支差額の部		
現金	3,408,616,423		消費支出超過額		Δ706,099,930
未収金	132,814,506				
仮払金	23,338,301				
短期貸付金	41,000				
収入の部合計		20,337,623,393	支出の部合計		20,337,623,393

平成5年度資金収支予算書

収入の部		金額	支出の部		金額
学生納付金収入		4,707,234,000	人件費支出		2,650,616,000
授業料	3,156,209,000		教育研究費支出		1,039,607,080
入学料	226,000,000		施設関係支出		3,204,550,000
実験研究費	403,925,000		設備関係支出		720,233,855
施設設備拡充費	921,100,000		管理経費支出		234,210,000
手数料収入		92,000,000	借入金等利息支出		157,864,916
寄付金収入		60,347,000	借入金等返済支出		94,620,000
国庫補助金収入		481,000,000	その他の支出		576,174,298
資産運用収入		230,820,000	未払金	41,310,425	
事業収入		3,000,000	退職給付引当特定資産繰入	14,200,000	
雑収入		54,629,000	施設引当特定資産繰入	111,000,000	
借入金等収入		2,080,000,000	育英基金特定資産繰入	8,520,000	
学費前受金収入		1,871,116,900	設備引当特定資産繰入	37,100,000	
未収金収入		132,814,506	第3号基本金引当資産	35,000,000	
施設引当特定資産取崩		760,666,456	その他	329,043,873	
その他の収入		23,338,301	予備費		60,000,000
資金収入調整勘定		Δ1,871,116,900	次期繰越資金		3,296,589,537
学費前受金控除	Δ1,871,116,900				
前期繰越資金		3,408,616,423			
収入の部合計		12,034,465,686	支出の部合計		12,034,465,686

（総工事費・二十五億円）

（総工事費・十億三千万円）

本館二・三階の空調工事